

3か所？3ヶ所？

助数詞の「ka」を正しく表記していますか？

How to choose the appropriate letter for “ka” as a postpositional particle used right after number, with kanji, hiragana or katakana?

有限会社 アトリエ・ワン
Atelier Bow-Wow

貝島良太
KAIJIMA Ryota

2009年の研究発表(発01)の『「ください/下さい」の使い分け」^[1]に続き、今年も助数詞の「ka」についての研究である。「3か所」「3カ所」「3ヵ所」「3ヶ所」「3ヶ所」「3箇所」「3箇所」のうち、どれが正しい表記かを考察してみる。「ください/下さい」については、使い方によりどちらにするのが正解かは決まってくるが、実際われわれが目にするところでは、間違った使われ方が散見される。一方、助数詞の「ka」は絶対的な正解がないまま、実に勝手(自由)に使用されており、一般的な統一がないように見受けられる。しかし最近、新聞、テレビなどのメディアで次第に「か」に統一されつつある。マニュアルにおける表記も「か」に統一していくことを提言する。

1. はじめに

昨年のテーマである「ください/下さい」は、文法規則で、用法によりどちらにするかが決まる。本動詞(=giveの意味を持つとき)として使う場合は漢字(例:パンを下さい)、補助動詞(=pleaseの意味を持つとき)として使う場合は平仮名(例:どうぞお座りください)である。

それでは、助数詞の「ka」はどうであろうか？6か国会議、3ヵ所、5ヶ年計画などばらつきがあるが、一体どれが正しいのであろうか。さまざまな辞典や日本語表記に関する書籍などで、そのことを調査したところ、助数詞の表記については「ください/下さい」のような文法的な規則はなく、さまざまな見解と習慣のようなものが存在していることが分った。そのときの気分で無手勝流的な使い方をしていたり、前例にならったり、自分たちで作った規則書に沿って使っていたりとまちまち

である。

2. いろいろな見解(素人編)

助数詞の「ka」の表記については、現在のところ上記のようにバリエーションは7つある。平仮名の「か」、片仮名の「カ」と「ケ」とその小文字の「カ」と「ケ」、そして漢字の「箇」と「個」である。使い分けが必要なのか、あるいは、どれか1つに絞るべきものなのか、多くの人がお迷いのようだ。「Web版とくっち.com」^[2]に興味深いQ/Aが掲載されている。ハンドルネーム「ナンカさん」27歳からの質問『何ヶ所と何ヵ所の「ヶ」「カ」は、使い分けますか？そもそもなんで「ヶ」が「カ」と発音するのでしょうか？』に対して、19名から回答が寄せられている。回答の一部を引用してみよう。

■私も、使い分けることはしてないですね。

使うときは何ヶ所と表記していますが、なぜ「ヶ」が「カ」と発音するのかについては私も疑問に思

うところす。

■使い分けた事はありません。

「何カ所」は、使った事も無ければ、見た事も無いからです。いつも「何ヶ所」と書きますし、見聞きするのも此方です。発音に関しては、私も分りません。

■何カ所ってあんまり見かけませんね。どうやって使い分けているんでしょうね。

私は、何ヶ所で表記しますけどね。今まで気付きませんでした。どうなんだろう？

■私は「ヶ」しか使った事はありません。

「カ」は見かけた事はありません。

■ヶをつかってカは使ったことはありません。

1 か月もヶを使います。

■[何ヶ所]で使っていますね。でも、そう言えばそうだな…と思ってちょっと調べてみました。この「ヶ」は、もともと「个」という形が変形したものだと言われているようで、この「个」は、「箇(か)」の異体字(略字)らしいです。つまり、「何ヶ所」と書くときの「ヶ」はカタカナの「ヶ」ではなくて、漢字の一種なんだそうです。関係あるか分かりませんが、中国語では「1 個」というのに「1 箇」と言い、読み方は「か」と「が」の間みみたいな発音をします。書くときは、中国では簡体字を使うので、竹かんむりの半分(=日本語のカタカナのヶに似ている)だけ書きます。

ここでは、圧倒的に「ヶ」派が優勢である。「カ」は見ることがないとすら言われている。質問に「か」が含まれていないので、「か」については回答にも触れられていないのはやむを得ないであろう。

「个/箇」と「ヶ」の関係を持ち出した知識派は1名あるが、大勢は正に民間療法的かつ感覚的なものといえる。ちまたでは小さい「ヶ」の人气が高い。一方、[Web版YAHOO! 知恵袋]^[3]にある、「jzz2506さん」からの質問『ヶ所について…。箇所とヶ所とカ所と何種類かありますが、どのように区別するんですか?』について、ベストアンサーに選ばれている回答は、「soriabaroloさん」のもので、

『「ヶ」は「箇」の略字ですから、「箇所」と書くの

が正式で、公の文書などでは「箇所」が使われるようですが、「か所」「ヶ所」「カ所」と書くのが一般的ではないでしょうか

と、相当に的を射ているものである。ちまたでは小さい「ヶ」の人气が断然高いようだ。

3. いろいろな見解(玄人編)

そこで、国語辞典や用語集、さらには国語の専門家の著書にどのように記載されているかを見てみよう。辞書/辞典については、「か」と「かしよ」の項を引いてみた。辞書/辞典の特徴は、あくまでも解説であり、表記の選択は読者に委ねられている。

[岩波国語辞典第六版]^[4]

か 【箇】カ コ

①物事を一つ一つさし示すのに用いる。「箇条・箇所」

②物を数えるとき、数詞につける語。「つ」に当たる。「12 箇月」⇒「个」は同字、「ヶ」と書くのは「个」の代用。

かしよ 【箇所・△個所】

そのもののある所。場所。「危険—」

[スーパー大辞林 3.0]^[5]

か 【箇・△個・▲个】

(接尾)助数詞。漢語の数詞に付いて、物事を数えるのに用いる。普通、さらに漢語の名詞に続いて用いられる。「三—月」「五—条」「个」の代わりに片仮名「ヶ」も用いられる」

かしよ 【箇所・△個所】

①(名)限定された特定の部分・場所。「読めない—がある」

②(接尾)(「か所」「ヶ所」とも書く)助数詞。数を表す漢語に付いて、特定の部分や場所を数えるのに用いる。「二、三—誤りがある」

[Microsoft Bookshelf Basic Version 3.0]^[6]

か 【箇】

物事を算(カズ)えたり一つ一つ指し示したりする時に用いられる語。

用例・作例

箇所・箇条書・六箇月・二箇[=二つと]三分の一表記

「個・ケ・カ・か」とも書く。

かしよ 【箇所】

何か問題になっている・場所(部分)。[数えるのにも用いられる]

表記 古くは「ケ所・個所」と書き、最近では「か所・カ所」とも書く。

[Web版 デイリーコンサイス国語辞典]^[7]

かしよ 【箇所】 {△個所}

[1] 場所. 部分.

[2] [か所] (尾) 該当部分を数える語

[辞海]^[8]

か 【箇・個・个・ケ】

物事を数えるのに用いる助数詞。「こ(箇・個)」と同意。但し「こ」はそこで切れるが、「か」は更に下に続く。「五一条」「六一月」「三一分の一(3・1/5)」

辞書/辞典の次は、メディア関連各社発行の用語集における助数詞の記述の比較である。用語集には、各社の選択後の結果が記載されている。まずは、昨年発売されたTC協会の「日本語スタイルガイド」から見てみよう。

[日本語スタイルガイド]^[9]

使う	使わない	品詞	使用例、他の品詞の場合の例
～か (月)	～ヶ(月)、 ～カ(月)、 ～カ(月)、 ～箇(月)	尾	3か月
箇所	個所、か所	名	危険な箇所

[記者ハンドブック 第11版]^[10]

か (箇■、個□)⇒個 個所、個条

か カ[数字に付く場合。「カ」は大文字、「ケ」は使わない]

二カ月、十カ所、数カ所 [注]「三が日」「百か日」「五か条の御誓文」は平仮名書き。

かしよ (箇■所、個□所)⇒個所

個所 疑問の個所、訂正の個所

カ所 [数字に付く場合] 三カ所、数カ所
[「カ」は大文字]

[新聞用語集]^[11]

か/こ 用字用語集・用例には記載なし。

常用漢字表・本表には、文部省制定の漢字表1945文字に新聞協会として追加した6文字1音の1音として追加された。

字音 カ(個)

かしよ (箇△所)⇒個所

[改定新版 朝日新聞の用語の手引]^[12]

か/こ 記載なし。

かしよ (箇△所)⇒個所[場所]見えない個所がある、落石した個所を調べる

カ所[助数詞] 5カ所、数カ所、何カ所 [注]カは小書きにしない。

[改定新版 読売新聞用字用語の手引]^[13]

か [個・箇]個 個所、個条書き

かしよ (箇▲所、個□所)⇒個所(「2か所」など助数詞として使う場合は仮名書き)

[改定新版 毎日新聞用語集]^[14]

※カ 個 コ

カ △箇

かしよ (箇所)⇒※個所 [注]「2カ所」など助数詞として使う場合は「カ所」

[NHK 新用字用語辞典]^[15]

か [個・箇] 2か所。3か月。

かしよ 個所[箇処] 故障の～。(「3か所」などは「○か所」)

この項の最後に、日本語の専門家の著書を引用する。言葉の歴史などが広く深く記されていて、大いに参考になる。

[日本語を知る・磨く ことばの表記の教科書]^[16]

9「一箇月」「一か月」「1ヶ月」はどれが正しいか

ものを数えるときの書き方で大きくゆれているのが、「カ」の表記である。「一箇月」「一か月」「一カ月」「一ヵ月」「一ヶ月」「一ヶ月」のような書き方が行なわれていて、どう書けばよいか迷う人も多いただろう。結論から言えば、「一箇月」あるいは「一か月」が標準的な表記である。ただし、他の書き方も一般に慣用されていて、必ずしも間違いとはいえない。

「一ヶ月」のように小書きした「ヶ」を用いる表記は、昔から行なわれていた。固有名詞にも「青ヶ

島「槍ヶ岳」のように「ヶ」と書いて「ガ」と読むものがある。この「ヶ」は、もとは漢字の「箇」に由来していると考えられている。「箇」の竹冠の一部をとったものとも、「箇」の異体字の「个」であるともいわれている。しかし、一般には片仮名の「ケ」と受け取られており、この部分は片仮名で書くと意識されてきた。そのため、戦後はこれを発音どおりの片仮名表記に改めた「一カ月」「一ヵ月」のような書き方も行なわれるようになった。

なお、「箇条」や「箇所」は漢字で書かれるが、この場合に「個条」「個所」という表記が行なわれることがある。これは、以前の当用漢字の時代に「箇」を表から削除して「個」で代用させようという案が出されたためである。新聞などでは、この案を採用して「個条」「個所」と書くようになり、現在もこの表記が用いられている。したがって、「個」を用いたこれらの表記も誤りではないが、常用漢字表では「個」の音として「カ」は挙げられておらず、「箇条」「箇所」の方がより標準的な表記だと言えよう。

[新聞と現代日本語]^[17]

「一カ月」か「一か月」か「一ヶ月」か

「一カ月」「一か月」「一ヶ月」のように同じ語にいくつもの書き方がある場合、どれが標準表記でしょうか。数詞のあとにつけて「ガ、カ」と発音する「ヶ」については、前項に引用した文化庁『言葉に関する問答集3』で《戦後の公用文や教科書などでは「ヶ」を使わず、「か」を大きく書くことで統一されてきている。……仮名書きにする場合は、公用文や教科書のように平仮名の「か」を書くのが、最も穏当な書き方と思われる》と述べています。

しかし、「一ヶ月」の「ヶ」は片仮名ではないのですが(前項参照)、一般的には片仮名の意識があったので、それを発音どおり片仮名の「カ」にして「一ヵ月」または「一カ月」と書く習慣が生まれました。

したがって数詞のあとに続く「か」の書き方は

「一ヶ月」「一ケ月」「一ヵ月」「一カ月」「一か月」の五通りあることとなります。このうち「一ヶ月」は昔の書き方、「一ケ月」はその変形、「一か月」は最も現代的な書き方、「一カ月」はその中間の書き方で、それに小さく書く変形があるといえましょう。

公用文、教科書、読売新聞、NHK、日本テレビ、テレビ東京などは「一か月」、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞、フジテレビ、テレビ朝日などは「一カ月」と書いています。

(以下省略)

一般では非常に多用されている「ヶ/ヶ」が教科書やメディアでは使われず、わずかに辞書と解説書に説明として触れられているというのは驚きである。

4. 正解(平仮名の「か」)の提言

さて、以上をもって、TCシンポジウムにご参加のマニュアル関係各位に『助数詞の「ka」に現在のところ最もふさわしいのは、平仮名の「か」である』と、私は提言させていただきたい。

理由は、

- ①「新聞と現代日本語」にあるように、文化庁の『言葉に関する問答集3』に記載されていること (お墨付き)
- ②教科書をはじめ読売新聞、NHKなど国民的なメディアで広範囲に使用されていること (普及性)
- ③TC協会発行の「日本語スタイルガイド」にも記載されていること
- ④小学生にも誤読なく「ka」と読めること
- ⑤「か」に新しさを感じること

である。確かに、「ヶ/ヶ/カ/カ」は「か」と比較してレトロな感じがする。新製品のマニュアルも会社自体も新しさがあるほうがよい。

5. 文章の敵、「不統一」

助数詞の「か」は「所」「月」「年」「国」「村」「日」「条」などの語を伴う。数か所、3か月、5か年計画、6か国会議、8か村、百か日(葬儀)、五か条の御誓文などである。

つまり、仮に「3か所」にすると、「か所」だけでな

く、ほかの助数詞の「ka」も「か」で統一しなくてはならない。これは、相当注意して実行しないと、6ヶ国会議、3箇所、5カ年計画のように同一の文書中で助数詞の表記に不統一が生じ、読者に不快感と不信感を持たれる原因になる。特に、マニュアルなどの改訂版では、旧文書の切り貼りの結果数種類の「ka」が出てくることは珍しくない。

不統一の中には、次の3つのケースが考えられる。もっとも、避けるべきは①のケースであろう。

- ①規則を決めた当事者が、間違った表記をしているとき（紺屋の白袴）
- ②同一文書中に、○か所、○ヶ所、○箇所、など同じ語の表記がばらついているとき
- ③同一文書中に、○箇所、○か月、○ヶ、などが混在しているとき

いずれも、その製品のマニュアル制作部門の校閲能力の低さを露呈してしまう。

6. 終わりに

用語の表記の統一は、正に、「言うは易く、行なうは難し」である。とはいえ、せめて規則は決めておかななくてはならないし、規則を守る体制（執筆者、校閲者だけでなく全社的な機運の高まり）も作らなくてはならない。教育と啓蒙活動が大切であるから、小集団活動などを通じて是非、言葉の表記に関する体制づくりを推進していくことをお勧めする。特に、改訂版などで以前の文書を再利用するとき、見直しの時間が十分でない場合に表記の不統一が発生しやすい。改訂に備えて日頃から既存の文書の表記の見直しをしておくことが肝心である。また、改訂で追加変更されるページ分のぎりぎりの校閲時間だけではなく、全体の統一感を見直すのに十分な時間を確保することが大切である。

* * *

【参考文献】

- [1] 貝島良太、有限会社アトリエ・ワン、「下さい」と「ください」を正しく使い分けていますか？—ほかにも「見る/みる」「言う/いう」「置く/おく」などは？—、TCシンポジウム'09論文集

2009、pp. 1-5

- [2] 「Web版とくっち.com」、http://www.tokuchi.com/pages/bbs/topic_detail.htm?id=1646802&listCount=50&page=1
- [3] 「Web版 YAHOO! 知恵袋」、http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1210851262
- [4] 株式会社岩波書店、「岩波国語辞典第6版」
- [5] 三省堂、「スーパー大辞林 3.0」2007＝三省堂、「大辞林 第2版」松村明編 1995、pp. 402、469
- [6] Microsoft Bookshelf Basic Version 3.0＝三省堂、「新明解国語辞書 第5版」
- [7] 三省堂、「Web版 デイリーコンサイス国語辞典」、<http://www.sanseido.net/main/dictionary/hanrei/dailyJJ.aspx>
- [8] 金田一京助編纂、三省堂、「辞海」1956、pp. 278
- [9] 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会、「日本語スタイルガイド」2009、pp. 190
- [10] 共同通信社、「記者ハンドブック 第11版」2008、pp. 161、172-173
- [11] 新聞用語懇談会編、日本新聞協会、「新聞用語集」1996
- [12] 朝日新聞、「改定新版 朝日新聞の用語の手引」2007
- [13] 中央公論新社、「改定新版 読売新聞用字用語の手引」2008、pp. 199、209
- [14] 毎日新聞、「改定新版 毎日新聞用語集」2007、pp. 71、83
- [15] NHK放送文化研究所編、NHK出版、「NHK 新用字用語辞典」2008、pp. 73、92
- [16] 佐竹秀雄＋佐竹久仁子、ベレ出版、「日本語を知る・磨く ことばの表記の教科書」2005、pp. 198
- [17] 金武伸弥、文藝春秋、文春新書（#366）、「新聞と現代日本語」2004、pp. 52-53、228-229

有限会社アトリエ・ワン (Atelier Bow-Wow)
取締役兼 **SuperHT³** 事業室長 貝島良太
e-mail: rkajjima@bow-wow.jp
URL: <http://www.bow-wow.jp/sht3/>
Tel/Fax: 03-3351-0058